

# ＜産業廃棄物処理実態調査票 記入要領＞

- 提出期限** 調査票の提出は、令和7年6月30日（月）までにお願いします。
- 調査対象事業所** 本調査票が送付された事業所のみを対象としています。従って、他所に本・支社（店）、工場等がある場合でも、それらの事業所は本調査の対象となりません。
- 調査対象期間** 本調査の対象となる期間は、令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日までの一年間）に大阪府内で完工した元請工事です。従って、この期間中に発生した廃棄物等の状況について記入してください。
- 調査票の構成** 本調査は以下の調査票および記入要領等から構成されていますので、調査票2種にご記入の上、色の付いている用紙のみを同封の封筒に入れてご返送ください。  
 ●調査票（その1）（その2）：各1部  
 ○記入要領（本票）：1部  
 ○廃棄物分類番号表：1部  
 ●意識調査票：1部  
 ○返信用封筒：1通
- 調査対象廃棄物** 別添の「廃棄物分類表」に示す廃棄物を対象とします。ただし、本調査では通常の産業廃棄物の他に、自社内で再（生）利用したものや他所に売却した物及び回収されたものも対象となりますので、記入をお願いします。
- 記入方法** 「調査票（その2）」の記入方法については、本票中面の「調査票の記入要領」を参考にして記入してください。なお、記入欄が不足する場合は、お手数をおかけしますが用紙をコピーしてご記入ください。  
  
 なお、調査票は委託業者のWebサイトからExcelデータでダウンロードできます。  
 URL：<https://www.gr-eco.co.jp/osaka-sp/DL.html>
- 提出方法** 同封の封筒で郵送をお願いします（切手不要）。メールやwebによる提出も可能です。  
 提出先メール：[osaka-sp@gr-eco.co.jp](mailto:osaka-sp@gr-eco.co.jp)
- その他** ご提出いただいた記入内容について、お問い合わせする場合がありますので、調査票の控えを取っておいていただきますようお願いいたします。

## ※秘密の保持について

本調査における内容については、目的以外に使用せず、個々のデータについては、秘密を遵守します。

記入方法に関するお問合せは、本調査業務を大阪府より受託している（株）グリーンエコ）までお願いします。また、Webサイトに「よくある質問」を掲載しておりますので、ご参照ください。

電話番号：0120-010-155

URL：<https://www.gr-eco.co.jp/osaka-sp/DL.html>

## 産業廃棄物処理実態調査票【その1】

### 調査票（その1）の記入例

調 査 票 番 号	
	調査会社記入欄のため記入しないでください。

1. 本調査は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有償あるいは無償で引渡している副産物の全てが対象となります。

2. 本調査の対象期間は、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）です。

3. 調査票（その2）には、貴社が施工した全ての元請工事（出来高工事含む）から発生する産業廃棄物、副産物について記入してください。  
 共同企業体（J.V）による工事については、分担施工方式では各社持ち分の元請工事高と発生廃棄物等を記入し、共同施工方式では貴社が代表会社の場合のみ、元請完成工事高と発生廃棄物等を一括記入してください。

4. 下記の提出フローに従い記入し、返送してください。

```

  graph LR
    A[事業所の概要] --> B{元請工事 有/無}
    B -- 無 --> C[返 送]
    B -- 有 --> D[工事実績及び内容]
    D --> E{廃棄物等発生しない/発生する}
    E -- 発生しない --> F[返 送]
    E -- 発生する --> G[調査票(その2)]
    G --> H[返 送]
  
```

事業所の概要	事業所名		大阪建設(株)				元請工事の有無	該当する番号に○を付けてください。
	所在地		大阪市中央区大手前2丁目1-1					
	記入者		部署名	建設課				
	フリガナ氏名	オオテ ケンジ 大手 健二	電話番号	06-6210-〇×△▲				
							1. 元請工事	有
							2. 元請工事	無
メールによる回答をする場合、今後、本調査の調査対象となった際に送信アドレス宛にメールによる依頼をしてよい場合は、チェックしてください。								<input checked="" type="checkbox"/> メールによる依頼可

工 事 実 績	元請完成工事高（令和6年度）								
	年間の元請完成工事高(出来高工事含む)を記入してください（消費税を含む）。								
	千 億	百 億	十 億	千 万	百 万	十 万	万		
			1	2	5	0	5	0	万円/年

次へ

令和6年度の1年間に産業廃棄物等は発生しましたか。該当する番号に○を付けてください。 ※再生利用された物、有償等で引き渡している副産物も対象としてください。		
1. 発生した。	2. 発生しなかった。	次へ
裏面の調査票（その2）に各工事現場から発生した産業廃棄物等について記入してください。		

「事業所の概要」「工事実績」を記入し、返送してください。

### ＜調査票(その2)の記入要領＞

## 建設業

調査対象期間

- この調査の対象期間は、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の1年間です。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を質問①～⑬までの流れに従って記入してください。

## 調査対象とする事業所と廃棄物

- この調査では、調査票Aで記載されている排出現場で施工した元請工事から発生した副産物（産業廃棄物、有償・無償引渡物）が記入の対象となります。

- 廃棄物がどのように分類されているかを示すために、別紙に「廃棄物分類表」を掲げてありますので参考にしてください。

## 発生量について

- 発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「焼却」、「脱水」等の処理を行う前の「名称」と「数量」をお答えください。

- 自社で焼却している場合、発生した廃棄物とは焼却前のものです。（記入例Cを参考にしてください）  
木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

- 自社で脱水している場合の発生した廃棄物とは脱水前のものです。（記入例Eを参考にしてください）  
汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算してください。

＜式＞：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（１００％－脱水後の含水率％）÷（１００％－脱水前の含水率％）

## 調査票(その2)の記入例

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票(その2)を記入してください。

本紙の裏面の「廃棄物等分類表」を参照してください。

該当する単位に、必ず○をつけてください。

⑤I燃料-回収の  
内容  
1:発電  
2:熱利用

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入してください。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入してください。

⑪処理後の処分方法

1 再利用・再生利用している

2 埋立処分している

[illegible]

ここでは、中間処理、再生利用や最終処分した先の名称を記入してください。委託した廃棄物が中間処理後に最終処分されている場合は、中間処理業者の名称を記入してください。

記入例：A

- ・工事現場から鉄筋くずが年間9 t 発生したが、すべて、〇〇町の(株)△△産業に売却した。
- ・相手先では、鉄鋼材料として再生利用している。

記入例：B

- ・工事現場から建設木くずが年間に2 t車で30台分（すべて満杯）発生した。
- ・1台当たりの重量が1 t程度であるため、重量に換算すると、30 tである。
- ・これは、〇×市にある〇〇商店に料金を払って処理を委託した。
- ・相手先では、破碎チップ化し、燃料として再生利用している。

記入例：C

- ・工事現場から廃プラスチックが年間10t発生した。
- ・すべて自社の焼却炉で焼却した。その灰の量は年間で1t程度であり、○△町にある(株)×□の処分場で埋立処分した。

記入例：D

- ・ 工事現場からプラスチックくずが年間5t発生した。
- ・ これは、×●市にある■▼(株)に中間処理を委託した。
- ・ 委託先では圧縮して固形燃料を製造している。

記入例：E

- ・脱水後の汚泥量は、100t（含水率70%）であった。
- ・脱水前の量は、計算していないので正確でないが、脱水前の含水率が95%であるため計算すると600tとなる。
- ・処理後の汚泥は、(株)□□に運搬を委託し、▼×県▲○市内に管理型処分地を保有する■(株)で埋立処分した。
- ・計算式  $100t \times (100 - 70) \div (100 - 95) = 600t$

記入例：F

- ・工事現場からコンクリートのがれき等が10tダンプで12台分発生した。重量に換算すると120t程度である。
- ・これは、×▽市に破砕プラントを保有する△△(株)に中間処理を委託した。△△(株)では破砕後、骨材として再生利用している。

記入例: G

- ・廃プラスチック類を1t発生した。
- ・自社の焼却炉で全て焼却し、発電に利用した。
- ・焼却灰は、50kg程度で×●市に処分場を保有する(株)×▼で直接で埋立処分した。